



日乗連ニュース ALPA Japan NEWS

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
企画会議
〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office30@alpajapan.org

www.alpajapan.org

Date 2013.7.26 No. 36 - 53

ヘリオス航空522便事故の再調査要請の署名協力のお願い

ヘリオス航空 522 便墜落事故 (Helios Airways Flight 522) は、2005 年 8 月 14 日にギリシャで発生した事故で、キプロスの新興航空会社のヘリオス航空 522 便の乗客と乗員あわせて 121 名が全員死亡した、ギリシャ航空史上最悪の事故です。操縦士が与圧システムの異常により酸素欠乏で意識不明となり、着陸できないまま燃料切れとなり山間部の森林に激突しました。

そして、この事故について現在当時同航空会社のチーフパイロットを務めていたイアンコ・ストイメノフ機長が、ギリシャ及びキプロスの欧州の 2 か国で、凶悪犯罪として刑事訴追を受けることになりました。第一審及び上告裁判における決定は航空会社のオペレーション及び運航乗務員のライセンスを規定する法的枠組みに対する完全な誤解であり、現在、ギリシャ最高裁による審理が行われることになっていますが、客観的事実に到達し、正義がもたらされるようにするため、ブルガリア運輸労働組合連盟は当該機長が資格を持った、独立した専門家の意見、あらゆる証拠物件の分析、及び航空法の適格な解釈から導かれた事実に基づいた公正な裁判が受けられるよう嘆願を求めており、ILO GDF 労働者グループ会議(2013 年 2 月 22 日)にて動議が出され、採択されています

その中で、カナダの航空事故調査を専門に行なっている民間調査機関の事故調査によると、公的報告書の中で指摘されている、操縦士が Pre-Flight で見逃したとされる Pressure Mode Selector の Position (本来は Auto でなければならなかったものが墜落後の残骸では Manual になっていた) が、衝突時の力で強制的に Manual Position になったと考えられるとの報告書を出しています(詳細は署名のサイト上で確認できます)。しかしながら、再調査が行なわれる動きはありません。

ギリシャは日本と同じように、刑事責任の追求では世界的にも悪名高い国です。公正で科学的な事故調査が行なわれていない弊害は、日本においても 1997 年に発生した日本航空 706 便事故において、不正確な事故調査により当該便の機長が刑事責任を追及されるという経験をしています。日本航空 706 便の裁判闘争の際にも IFALPA を始めとした全世界のパイロットの支援を受けて、無罪判決を勝ち取りました。この同じような状況のヘリオス航空の状況に対し、日乗連加盟の皆様にも支援をお願いしたいと考えています。

ヘリオス航空の再調査を求める署名は、以下のインターネット上で個人署名の形で行なわれています。また、このサイトで事故の調査の詳細も見る事が出来ます。

ぜひとも、皆様の協力をお願いします。

Petition: Reopen the Investigation of HCY522

(<http://www.heliosaccident.com>)

